

# 演奏に役立つ One Point Lesson

## フルート Flute

金野紗綾香 かねの・さやか



【出身】東京音楽大学  
【所属】シエナ・ウィンド・オーケストラ  
【趣味】お笑い、絵を描くこと  
【血液型】B型  
【星座】おうし座  
【読者にひとこと】ステキな「音楽」で豊かな人生を♪  
【手紙の送り先】BJ 気付

### 音程を自由自在にコントロール！

みなさんこんにちは！ まずはいきなり質問です。あなたの楽器は、頭部管をどれくらい抜いていますか？

A 5mm以下

B 5mm～10mmくらい

C 10mm以上

- **Aを選んだあなた**→頭部管が内側を向きすぎて高音のファ#が出にくかったり、音がつまったりすることはないですか？
- **Bを選んだあなた**→バッチリOK d(˘o˘)b
- **Cを選んだあなた**→ズバリ、音程が高くなっていませんか？

「調整が狂っている」もしくは「楽器の持っているもとのピッチが高め」である以外は、フルートは5mm～10mmくらいが音程、音色ともバランスよく鳴るように製造されています。なので、入れすぎたり抜きすぎたりしている場合は、吹き方を見直してみる必要があるかもしれませんね。

今月は、音程をコントロールしながら、いい音のツボも同時に探せちゃうエクササイズをご紹介します。(´ー´)

#### ■ではやってみよう

まずは【譜例1】。中音域のシ♭を矢印のように、音程をこれ以上ないくらい上げたり、下げたりしてみてください。「これ以上ない」くらいですよ!? 多少ひっくり返ったりしても全然かまわないので、メチャクチャ大きめにいきましょう！

次に、以下の方法で、さらに音をぐにやりと曲げていきましょう。

①楽器を外側に回したり（高くなる）、内側に回したりします（低くなる）。

※うまくいく「コツ」→歌口が遠くにいけばいくほど、息もそれについていくように少し強めに。手前にきたときは少し

【譜例1】



【譜例2】



弱めにしてみると、差がつきやすくなってきます。

②上を向いたり（高くなる）、下を向いたり（低くなる）。

③下あごを前へ（アントニオ猪木のように）、後ろへ。

④最後に全部を組み合わせて。

実際にフルートを吹くときには、①や②はあまり使いすぎない方がよいですが、③で息の角度をコントロールできるようになると、音程も自由自在になってきます。【譜例2】や、いろいろな音域の音で練習してみてくださいね。

#### ■ここで、楽器のクセを知ろう

フルートという楽器は「吹けばいつもいい音程〜♪」となってくれればいいのですが、なかなかそううまくはいきません。(;>) )

まずはナチュラルに吹いたときに、どの音が高くなりやすいのか、どの音が低くなってしまいかなど、楽器の傾向を知っておくとずいぶん楽になります。半音ずつロングトーンをしながら、全部の音を一度チューナーで調べて、メモしてみましょう！（例：中音のド#→高くなる、など）

#### ■次に、奏法のクセを知ろう

どういった場合に音程が動いてしまうのかを考察していきましょう。チューナーをつけながら【譜例3、4】を吹いてみてください。

【譜例3】→音程が高くなりましたか？ 高くなる傾向があるのは次のような場合です。

- **f (ff)** のとき
- 高音域のとき
- アクセントがついているとき
- クレッシェンドがついているとき

【対策】 譜例1の「音を曲げていくエクササイズ」をもとに、息の角度を太いまま、少し

中に入れてみます。同時に [イメージ]

重心も下がって、息が体の中に吹き込まれて通っていくようなイメージを持ちます（イラスト参照）。

【譜例4-1】→音程が低くなりましたか？ 低くなる傾向があるのは次のような場合です。

- **p (pp)** のとき
- 低音域のとき
- スラーがかかっているとき
- デクレッシェンドのとき

【対策】 息が暖かみを失わないように。【譜例4-2】のように1オクターヴ上で吹いてみて、その息のスピードの感覚をそのままに下の音域でも吹いてみましょう。スラーがついていると、下行形でも上行形でも低くなっていきやすいので、チューナーを見ながらゆっくりトレーニングしてみましょう（【譜例4-3】）。

フルート（特にピッコロ）は「音程のない楽器」、つまり裏を返せば「音程を自由自在に作っていける楽器」です。♪(˘-˘) 自分の中にある「うた（ソルフェージュする力）」を大切に育てながら、楽器をコントロールする方法もたくさん練習していきましょう♪

【譜例3】



【譜例4-1】



【譜例4-2】



【譜例4-3】

